

「第 75 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 4 年 1 月 20 日（木）13 時 00 分
都庁第一本庁舎 7 階 特別会議室（庁議室）

【危機管理監】

それでは第 75 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日の会議には、感染症の専門家といたしまして、東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボードのメンバーで、東京都医師会副会長でいらっしゃいます猪口先生、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます大曲先生。

東京 iCDC 専門家ボードから、座長でいらっしゃいます賀来先生、東京都医学総合研究所社会健康医学研究センターセンター長でいらっしゃいます西田先生。

そして医療体制戦略監の上田先生にご出席いただいております。よろしくお願いいたします。

また、武市副知事、潮田副知事、宮坂副知事ほか 6 名の方につきましては WEB での参加となっております。

それでは早速でありますけれども、まず、「感染状況・医療提供体制の分析」のうち「感染状況」について、大曲先生からお願いいたします。

【大曲先生】

はい。それでは「感染状況」についてご報告をいたします。

色は「赤」としています。「大規模な感染拡大が継続している」といたしました。

感染の拡大が急速に進んでおります。社会活動の停止を余儀なくされる可能性がございます。社会活動を維持し、都民の生活を守るための対策を早急に講じる必要があります。65 歳以上の新規陽性者数が大幅に増加をしています。今後の動向を注視する必要がある、といたしました。

それでは詳細について報告をいたします。

①の新規陽性者数でございます。

7 日間平均ですけれども、前回は 1 日当たり約 1,136 人、今回は 1 日当たり約 4,555 人に大きく増加をしています。増加比は約 401%であります。

7 日間平均でありますけれども、1 日当たり約 4,555 人と、前回の 1 日当たり約 1,136 人との比較では約 4.0 倍、前々回の 1 日当たり約 135 人から比較しますと、約 33.7 倍に増加をしています。第 5 波の立ち上がりをはるかに上回るスピードで増加をしています。これまでに経験したことのない危機的な感染状況となる可能性がございます。

1 日で発生した新規陽性者数であります、1 月 19 日に 7,325 人となっております。こ

れは過去最多を大幅に上回っております。増加比は約 401%と、これは依然として極めて高い水準で推移をしております。この水準が継続しますと、1 週間後の 1 月 27 日の推計値は 4.01 倍の 1 日当たり約 18,266 人と、危機的な感染状況となります。

都では、東京都健康安全研究センターにおいて、オミクロン株に対応した PCR 検査を実施しています。また、民間の検査機関と連携して、新型コロナウイルス感染症の患者さんのゲノム解析を行っています。今週の変異株 PCR 検査の結果では、オミクロン株疑いの割合は 95.3%と、全体の 9 割を超えています。一方、デルタ株の感染者数も増加していることに注意が必要であります。

感染拡大が急速に進んでおり、家庭や日常生活において、医療従事者、エッセンシャルワーカーを含むすべての都民が、感染者や濃厚接触者となるリスクが高まります。その結果就業制限を受ける者が多数発生するため、社会活動の停止を余儀なくされる可能性があります。社会活動を維持し、都民の生活を守るための対策を早急に講じる必要があります。

人との接触の機会を減らすため、外出や買い物の回数を減らすことや、自分や家族が感染者や濃厚接触者となり外出できなくなった場合を想定して、生活必需品を準備すること等を都民に呼びかける必要があります。

感染の拡大が急速に進んでいることから、ワクチンの接種を検討中の都民に対して、ワクチンの接種は、重症化の予防効果と死亡率の低下が期待されていることを周知し、ワクチンの接種をさらに推進する必要があります。

また、ワクチンを 2 回接種した後も感染する可能性はあります。軽症や無症状であっても、周囲の人に感染させるリスクがありますので、ワクチンの接種後も、普段会っていない人との飲食や旅行、その他の感染リスクの高い行動を引き続き避けるとともに、基本的な感染防止対策を徹底する必要があります。

オミクロン株の感染拡大が急速に進んでおります。ワクチンを 2 回接種した都民に対する 3 回目の接種を早急に推進する必要があります。このため、都は、区市町村と連携をして、ワクチンの 3 回目の追加接種を前倒しで開始する体制構築を進めています。また、都は大規模接種会場を都内の計 3 か所に開設をして、まずは警察・消防職員を対象として、3 回目の接種を行うこととしています。

医療従事者の家族、そしてエッセンシャルワーカーへのワクチン接種を含めて、各都道府県におけるオミクロン株の感染状況に応じて、効果的かつ早急にワクチンを配付することが求められます。

また、気温が低い中でも換気を励行し、手洗い、不織布マスクを隙間なく正しく着用すること、密閉・密集・密接、いわゆる 3 密の回避、人混みを避けて人との間隔をあける等、基本的な感染防止対策を徹底することが重要であります。

ワクチンですけれども、東京都新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイトによりますと、1 月 18 日時点で、東京都のワクチンの接種状況は、全人口で 1 回目が 78.2%、2 回目が 77.5%、接種対象者である 12 歳以上にしますと 1 回目が 86.2%、2 回目が 85.4%、

65 歳以上では 1 回目が 92.5%、2 回目が 92.1% でした。

それでは①-2 に移って参ります。年代別の構成比でございます。

50 代以下の割合が新規陽性者全体の 9 割以上を占めております。中でも 20 代が 35.7% と、各年代の中で最も高い割合となりました。また、10 歳未満と 10 代の割合が上昇しています。12 歳未満はワクチン未接種であることから、保育園・幼稚園や学校生活での感染防止対策の徹底が求められます。

次①-3 に移ります。高齢者であります。

新規陽性者数に占める 65 歳以上の高齢者数であります。前週の 265 人から、今週は 1,184 人となり、その割合は 5.3% となりました。

7 日間平均ですけれども、1 日当たり約 59 人から、今回は 1 日当たり約 245 人となりました。

このように、65 歳以上の新規陽性者数が大幅に増加しております。今後の動向を注視する必要があります。高齢者は重症化するリスクが高く、入院期間も長期化することが多いため、家庭内そして施設等での徹底した感染防止対策が重要であります。

また、医療機関や高齢者施設等では、ワクチンを 2 回接種した職員及び患者や入所者も、基本的な感染防止対策を徹底・継続するとともに、3 回目の接種を推進する必要があります。また、職員や患者家族からの感染防止対策を徹底する必要があります。

次①-5 に移って参ります。感染経路でございます。

濃厚接触者における感染経路別の割合であります。同居する人からの感染が 51.6% と最も多かったという状況であります。次いで施設及び通所介護の施設での感染が 13.1%、会食による感染が 10.3%、職場での感染が 9.9% でした。

今週は 20 代における会食での感染例、10 歳未満及び 10 代における教育施設等での感染例、80 代以上における高齢者施設での感染例が多数見られました。また、高齢者施設や保育園では、集団発生の事例が確認されております。

少しでも体調に異変を感じる場合は、外出や人との接触、登園・登校そして出勤を控えるよう周知する必要があります。

また、普段会っていない人との会食の機会は、新たな感染拡大の契機になる可能性があります。長時間、大人数で会話をすること等によって感染リスクが高まることから、友人や同僚等との会食はできる限り短時間、少人数として、会話時はマスクを着用することを繰り返し啓発する必要があります。

また、保育園の休園等によって、保護者が欠勤せざるを得ないこと等による、社会活動への影響が危惧されます。施設での集団発生を防止するために、保育園・幼稚園、教育施設、高齢者施設等における感染防止対策を、これはより一層徹底する必要があります。

また、職場での感染を防止するために、事業者は従業員が体調不良の場合に、受診、そして休暇の取得を積極的に勧めるとともに、テレワーク、オンライン会議、時差通勤の推進、3 密を回避する環境整備等の推進と、基本的な感染防止対策を徹底することが、引き続き求

められます。

また、在留外国人においても、旧正月、2月1日ではありますが、ここに向けての自国の伝統、そして風習に基づいたお祭り等で、密に集まり飲食等を行うことが予想されます。ですので、言語や生活習慣等の違いに配慮した情報提供、そして支援が必要であると考えます。

①-6に移って参ります。無症状者であります。

今週の新規陽性者 22,523 人のうち、無症状の陽性者が 2,049 人、割合は前週の 8.4% から今週は 9.1% となっております。

今週も、症状が出てから検査を受けて陽性と判明した人の割合が高いという状況です。

症状がなくても自分自身に濃厚接触者の可能性がある場合には、検査を受けるように周知をする必要があります。また、無症状、あるいは症状の乏しい感染者から感染が広がることがあります。症状がなくても感染源となるリスクがあることに留意をして、日常生活を過ごす必要がございます。

次①-7に移ります。今週の保健所別の届出数であります。

多い順に見ますと、世田谷が 1,735 人と最も多く、次いで新宿区が 1,278 人、多摩府中が 1,202 人、足立が 1,138 人、みなとが 1,102 人でありました。

このように感染の急拡大によって、保健所の業務のひっ迫が懸念されます。

次①-8に移ります。保健所の管内ごとの数を見て参ります。

今週ですが、都内の保健所のうち、約 71% にあたる 22 の保健所で、それぞれ 500 人を超える新規陽性者数が報告されております。

①-9をご覧ください。これを人口 10 万人単位で補正をしますと、このような形で紫一色という状況になります。

デルタ株からオミクロン株への置き換わりが進んでいるために、急速な感染拡大に警戒する必要がございます。

次、②#7119 における発熱等の相談件数に移ります。

この相談件数の 7 日間平均であります。前回は 78.9 件、今回は 105.7 件と増加をしています。

また、都の発熱相談センターにおける相談件数の 7 日間平均であります。前回は約 2,310 件、今回は 1 月 19 日時点で約 4,056 件と増加をしています。

このように発熱等相談件数の 7 日間平均が増加傾向にあります。感染の急速な拡大に対応するために、都は発熱相談センターの規模を拡大しています。引き続き#7119 と発熱相談センターの連携を強化していく必要がございます。

次に③です。新規陽性者における接触歴等不明者数とその増加比でございます。

接触歴等不明者数であります。7 日間平均で前回の 1 日当たり約 735 人から、今回は 1 日当たり約 2,988 人となっております。

このように接触歴等不明者数は 5 週間連続して増加をしています。特に今週は大きく増加をしました。接触歴等不明者の周囲には陽性者が潜在していることに注意が必要であ

ります。

次③-2に移ります。こちらは増加比でございしますが、前回の約808%から今回は約406%となっております。

しかし、この増加比は、約406%ということで100%を大きく超えておりますし、極めて高い水準で推移をしています。感染経路が追えない第三者からの潜在的な感染を防ぐために、基本的な感染防止対策を常に徹底することが重要であります。

次③-3に移ります。新規陽性者の中に占める接触歴等不明者の割合であります。前週の約64%から今週は約66%でありました。

いつどこで感染したか分からないとする陽性者が、幅広い年代で高い割合となっております。新規陽性者との接触歴がある無症状の方へのPCR検査等を推進する必要があるとございます。

私からは以上でございします。

【危機管理監】

ありがとうございました。

続きまして、「医療提供体制」について猪口先生からお願いいたします。

【猪口先生】

はい。報告いたします。

総括コメントの色は「橙」、「通常の医療を制限し、体制強化が必要な状況である」といたしました。

高齢者の重症患者が増加しており、警戒する必要がある。第5波をはるかに超える療養者数の増加が危惧されます。療養者の重症度、緊急度、年齢構成等に応じ、入院医療、宿泊及び自宅療養体制を柔軟に活用する必要がある、といたしました。

個別のコメントに移ります。

④検査の陽性率です。

検査の陽性率は、前回の9.7%から21.3%となりました。また、PCR検査等の人数は、前回の1日当たり約9,228人から、約17,275人となっております。

症状が出てから検査を受けた方の割合が上昇していることが、検査の陽性率が上昇している理由の一つと考えます。無症状や軽症で検査未実施の感染者が潜在していることが危惧されます。

症状がなくても、自分自身に濃厚接触者の可能性がある場合や、ワクチン接種済みであっても、発熱や咳、痰、倦怠感等の症状がある場合は、かかりつけ医、発熱相談センター又は診療・検査医療機関に電話相談し、早期に検査を受けるように周知する必要があります。

新規陽性者が急増しており、都は、公表を了解した診療・検査医療機関のリストをホームページ上に公表するとともに、更なる検査体制の強化に取り組んでおります。

感染を不安に感じる無症状の都民が、薬局や民間検査機関等において、PCR検査等を無

料で受けられる取組を都内約 180 か所で実施しており、1 月 3 日から 1 月 9 日の期間に実施された検査 33,330 件のうち、520 件の陽性疑い例が報告されております。

都では、繁華街、特定の地域や大学等で無症状者を対象にしたモニタリング検査を実施しておりまして、1 月 3 日から 1 月 9 日の期間に実施されたモニタリング検査 8,785 件において、13 件の陽性疑い例が報告されております。

⑤救急医療の東京ルールの適用件数です。

7 日間平均は前回の 147.3 件から、1 月 19 日時点で 203.0 件に大きく増加いたしました。過去最高値を更新しております。

特に 1 月以降、東京ルールの適用件数は急激に増加しており、救急患者の受入れ体制がひっ迫しております。一般救急の増加により、一般病床が満床になっていることに加え、新型コロナウイルス感染症患者のために転用した個室も満床になる等、医療機関の負担が大きくなっております。救急車が患者を搬送するための現場到着から病院到着までの活動時間は、過去の水準と比べると、延伸しております。

⑥入院患者数です。

入院患者数は 954 人から 1,805 人に増加いたしました。今週新たに入院した患者は 1,261 人です。陽性者以外にも疑い患者について、都内全域で 1 日当たり約 185 人を受け入れております。

病床使用率が 20%を超えました。また、東京ルールの適用件数が急増しており、救急医療体制が大きく影響を受けております。

例年、冬期は緊急対応を要する脳卒中・心筋梗塞や骨折等の救急受診が多い季節であります。各病院では、新型コロナウイルス感染症患者の病床確保を進めているため、これらの患者の入院の受入れが非常に難しくなっております。

感染の急拡大に伴い、本人や家族が感染者や濃厚接触者となり、就業制限を受ける医療従事者が多数発生すれば、病床が空いていても、マンパワー不足で患者の受入れができなくなり、通常の医療も含めた医療提供体制がひっ迫することが予測されます。このため都は、入院重点医療機関に対し、感染者及び濃厚接触者等の休業者数を定期的に調査することといたしました。

都は、「オミクロン株特別対応」を発動し、病床確保レベル 1、4,863 床から、病床確保レベル 3、6,919 床に引き上げるよう、各医療機関に要請しており、1 月 19 日時点で確保病床数は 5,015 床となっております。重症用病床は今後の重症者の発生状況に応じ、引き上げることといたしております。

現在の新規陽性者数の増加比約 401%が継続いたしますと、1 週間後には 4.01 倍の 1 日当たり約 18,266 人が新規陽性者として発生することになり、新たに発生する入院患者数は、今週の入院率 5.6%で試算しますと、約 7,160 人になると推計されます。医療提供体制のひっ迫が危惧されます。

都では、軽症者等を一時的に受け入れ、酸素投与や中和抗体薬による治療等も行える酸

素・医療提供ステーションを都内数か所に開設しております。

現在、入院調整本部への調整依頼件数は、新規陽性者数の急増に伴い、高い水準で推移し、1月19日時点で226件となっております。入院調整本部では、変異株（オミクロン株）の感染拡大に備え、重症用病床の一元管理を行うほか、転院支援班、それから入院調整（軽症）班、それから保健所支援班等を設置し、機能拡充や体制強化を図っております。

⑥-2です。年代別割合は、70代が最も多く全体の約18%を占め、次いで20代が約15%でありました。高齢者の入院患者数及びその割合が増加しており、重症患者数の動向を注視する必要があります。

⑥-3です。全療養者数は、前回の8,376人から、1月19日時点で33,281人となっております。内訳は、入院患者が1,805人、宿泊療養者が2,751人、自宅療養者は2,779人から15,458人、入院・療養等調整中が2,533人から13,267人となっております。

全療養者に占める入院患者の割合は約5%、宿泊療養者の割合は約8%でした。自宅療養者と入院・療養等調整中で自宅にいる感染者が約86%を占めており、自宅療養中の健康観察、重症化予防が重要であります。

第5波をはるかに超える療養者数の増加が危惧されます。入院医療、宿泊及び自宅療養体制を確保するとともに、療養者の重症度、緊急度、年齢構成等に応じ、柔軟に活用する必要があります。

都は16か所、受入れ可能数4,760室の宿泊療養施設を確保しております。また、1月中に合計5,355室を確保するとともに、更なる宿泊療養施設の確保、開設の準備を進めております。

自宅療養者の急速な増加に対応するため、都は、陽性判明直後から、かかりつけ医や診療・検査医療機関が健康観察を開始する取組、地域の医師等による電話・オンラインや訪問診療の充実、フォローアップセンターの相談員の増員等を進めるとともに、あらかじめ人材情報を登録可能な「東京都医療人材登録データベース」を設置し、更なる体制強化を進めております。

都はこれまで、約100,000台のパルスオキシメータを確保し、区市保健所に約27,000台配付するとともに、東京都医師会へも20,000台貸与しております。すべての自宅療養者に行き届くよう、パルスオキシメータの確保を進めて、1月中にさらに108,000台を確保する予定となっております。

⑦重症患者数です。

重症患者数は前回の4人から1月19日時点で10人となっております。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は6人、人工呼吸器から離脱した患者が2人、人工呼吸器使用中に死亡した患者が1人でありました。

ECMOを使用している患者はいらっしゃいません。人工呼吸器又はECMOによる治療が間もなく必要になる可能性が高い状態の患者さんが32人いらっしゃいます。

新規陽性者数の急速な増加に伴い、中等症患者が増加すれば、一定割合で重症患者が発生

する可能性があります。重症患者数は新規陽性者数の増加から少し遅れて増加してくることから、今後、重症患者数の更なる増加が予想されます。一方、例年、冬期は脳卒中・心筋梗塞等の入院患者が増加する時期で、新型コロナウイルス感染症重症患者のための病床の確保との両立が困難になることが予想されます。

⑦-2です。重症患者の年代別内訳は、10歳未満が1人、50代が2人、60代が3人、70代が1人、80代が2人、90代が1人でありました。性別では、男性が7人、女性が3人です。

重症患者10人のうち、60代以上が7人となっており、高齢者の重症患者の増加に警戒する必要があります。

今週報告された死亡者数は4人でありました。1月19日時点で、累計の死亡者数は3,181人となっております。

⑦-3です。新規重症患者数の7日間平均は、1月19日時点で1.1人でありました。以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまご説明のありました分析シートの内容につきましてご質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは次に、都の今後の対応について、この場でご報告のある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。

それではここで東京iCDCからご報告いただきます。

まず、「都内主要繁華街における滞留人口のモニタリング」につきまして西田先生からお願いいたします。

【西田先生】

はい。それでは、直近の夜間滞留人口の状況につきまして報告を申し上げます。

次のスライドお願いいたします。

初めに分析の要点を申し上げます。レジャー目的の夜間滞留人口は、年末年始に一時減少したものの、その後再び増加に転じており、前回緊急事態宣言中の平均水準に比べますと、34%高い水準で推移しております。

年明け以降、全世代でハイリスクな深夜帯の滞留人口が増加しており、今後の感染状況への影響が懸念されます。

オミクロン株の感染拡大が急速に進む中で、深夜までの長時間に渡る会食、マスクを外しでの会話等リスクの高い行動を避けていただく必要があると思われれます。

次のスライドお願いいたします。

さて、冒頭改めてですが、繁華街の夜間滞留人口と、一般的な人流との違いについて簡単

におさらいをさせていただきます。

昨年ネイチャー誌に発表された、GPS データを用いた論文によりますと、人々の移動先、すなわち滞留場所の種類によって、感染のリスクが大きく異なることが明らかとなっています。

この研究では、10%程度の限られた場所での滞留が、85%の感染を説明すると推計されており、特に右側の図にありますように、フルサービスのレストラン、すなわちアルコールの提供を伴う飲食店における滞留が、その他に比べ感染リスクが圧倒的に高いということが示されています。

こうしたエビデンスを踏まえまして、私どもは、いわゆる品川駅の改札や渋谷の交差点等をただ通過するような単純な人出や、一般的な人流のデータではなく、飲食店が密集する繁華街、さらには、アルコールの消費量が増加する夜間に着目をし、ハイリスクな場所、ハイリスクな時間帯の滞留人口の推移を、リスク高度の指標として、モニタリングをしております。

次のスライドお願いいたします。

こうしたデータの特徴を踏まえつつ、直近の繁華街滞留人口の状況について説明をさせていただきます。

年末年始の2週間で若干滞留人口は急激に減少いたしました。年明け特に先週に入りまして、再び増加に転じております。

次のスライドお願いいたします。

現状の夜間滞留人口の水準を、前回の緊急事態宣言中の平均水準と比べますと、約34%高い水準にあります。

オミクロン株の強い感染力を考慮しつつ、感染状況の急激な悪化を食い止めていくためには、夜間滞留人口が、さらに増加していくという状況を回避することが重要と思われれます。

次のスライドお願いいたします。

こちらは繁華街滞留人口の日別推移を時間帯別に示したグラフです。右端が直近の状況でございますけれども、昼の滞留人口は少し減少し始めているようにも見えますが、一方で夜間の滞留人口は、感染状況が急激に悪化する中であっても、依然横ばいという状況が続いております。

次のスライドお願いいたします。

こちらは深夜帯滞留人口の年齢階層別の推移を示したグラフですが、中高年層、若年層、そして高齢層のあらゆる世代で、年明けから増加が見られます。

ブレークスルー感染が多発している状況にありますので、ワクチン接種を完了している方であっても、長時間深夜までの会食については、できる限り控えていただくことが必要な局面であると思われれます。

次のスライドお願いいたします。

こちらは、20時から22時、22時から24時の夜間滞留人口と実効再生産数の推移を示し

たグラフです。年末年始の 2 週間で夜間滞留人口が急激に減少したことを受け、極めて高いところまで上昇していた実効再生産数が、一時的に下降しております。オミクロン株といえども、こうしたハイリスクな滞留人口が急激に減少すると、実効再生産数の上昇にある程度歯止めがかかる可能性があることを示唆しているものと思われま

す。ただ年明けからの夜間滞留人口の増加の影響によって、今後感染状況がさらに悪化する可能性があり、警戒が必要な状況だと思われま

す。次のスライドをお願いします。

さてこれまでの我々の分析で、夜間滞留人口の中でも、特に深夜帯一滞留人口と後の感染状況との関連が強いということがわかっておりますが、その背景要因の一つとして、深夜帯の繁華街における、マスクの着用率の低下の問題が挙げられます。

これは以前にもお示しした資料ですが、昨年 3 月に六本木駅構内にて、マスク探知システムにより、288 時間にわたる定点開削観測を行った結果です。

18 時以降ですね、深夜帯に近づくにつれて、マスクの未着用率は顕著に増加しています。朝 8 時台の未着用率に比べますと、夜 9 時以降では、マスクの未着用リスクが約 5 倍以上となっております。長時間の飲酒によってマスクの着用等、基本的な感染対策がおろそかになる可能性があります。

オミクロン株の感染拡大が急速に進む中で、深夜までの長時間にわたる会食マスクを外しての会話等、リスクの高い行動を避けていただくことが必要であると思われま

す。私の方からは以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

西田先生からのご説明についてご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは次に、「総括コメント」、「変異株 PCR 検査」、「学生寮・部活動で集団感染を防ぐためのチェックリストの作成」及び「自宅療養者向けハンドブックの改訂」につきまして賀来先生からお願いいたします。

【賀来先生】

はい。まず、分析報告についてコメントを、続いて、繁華街滞留人口のモニタリング、変異株、学生寮・部活動における感染対策、自宅療養者ハンドブックの改訂について報告をさせていただきます。

まず分析報告へのコメントです。

ただいま大曲先生、猪口先生から、感染が急速に進み、社会活動の停止を余儀なくされる可能性があり、都民の生活を守るための対策が必要であること、高齢者の重症患者が増加し、第 5 波をはるかに超える感染状況が危惧され、療養者の重症度や緊急度に応じて入院医療、

及び、宿泊療養体制等を柔軟に活用していく必要があるとの報告がありました。

今後は、潜伏期間が短く、より短時間に感染伝播が起こるオミクロン株の特性に応じた柔軟かつ総合的な対策を、行っていく必要があると思われまます。

続きまして、繁華街滞留人口モニタリングへのコメントです。

西田先生からは、都内繁華街の滞留人口のモニタリングについてご説明がありました。

年明け以降、全年代でハイリスクな深夜帯の滞留人口が増加しており、今後の感染状況への影響が懸念されるとのことです。

オミクロン株の感染拡大が急速に進む中で、深夜までの長時間にわたる会食、特にマスクなしでの会食をできる限り避ける等、引き続き、一人ひとりが感染に繋がる行動を避け、感染対策を徹底することで、感染リスクを減らしていくことが大変重要かと考えます。

続きまして変異株について報告をさせていただきます。

東京都では、オミクロン株であると推測される L452R 変異株の陰性例について公表を行っております。

まず、スライド左側、変異株 PCR 検査の実施率ですが、これまで 60% 台の後半を推移しております。直近の 1 月 11 日の週は、現在のところ 26.8% となっております。

次にスライド右側の L452R 変異株の陰性率の推移についてのデータです。

陰性率、つまりオミクロン株と推測できる割合ですが、1 月 11 日から 1 月 17 の週に、前週の 87.1% からさらに増加し、95.3% と、9 割を超えております。

次のスライドお願いします。

こちらは先ほどの PCR 変異株検査の実施状況の一覧です。

非常に細やかなスライドに資料になってはいますが、これまでのところ、都内でオミクロン株と推測できる件数、L452R 変異株の陰性数は、ゲノム解析の結果確定している 480 例を含め、8,702 例と、先週の報告時より大きく増加しております。

次のスライドお願いします。

こちらのスライドは、オミクロン株と推測できる L452R 変異株の陰性率と、N501Y 変異株であるアルファ株及び L452R 変異株であるデルタ株の推移を比較したグラフです。

赤い線、オミクロン株は、都内で最初に確認されてから、5 週目で 9 割に達しています。これはデルタ株よりも 10 週早く、アルファ株よりも 16 週も早く達しており、オミクロン株がこれまでもない速いスピードで置き換わりが進んでいることがわかります。

次のスライドお願いします。

こちらのスライドは、オミクロン株の発生件数を推計してきたものです。

1 月 11 日の週は、3,102 人と、前週の 674 人から大きく増加しております。

次のスライドお願いします。

スライド 5 枚目、6 枚目ですが、まずこの 5 枚目は、ゲノム解析について、参考としてお示ししたものです。1 月の結果については、98.9% がオミクロン株となっております。次のスライド 6 枚目の詳細については割愛させていただきます。

東京 iCDC ではオミクロン株を含めた変異株の発生動向について、引き続き監視をして参りたいと思います。

次のスライドをお願いします。

この度のオミクロン株の急拡大を受けまして、東京 iCDC の感染制御チームで、学生寮・部活動における主な感染対策のチェックリストの作成と、自宅療養向けハンドブックの改訂を行いましたので報告いたします。

まず、学生寮・部活動における主な感染対策のチェックリストについてご報告いたします。

大学の学生寮や部活動においては、集団感染の発生リスクが高く、これまでもクラスターが発生してきておりましたが、特にオミクロン株による感染の急拡大により、さらなる警戒が必要になっています。

このため、東京 iCDC 感染制御チーム、感染対策支援チームでは、保健所等へのヒアリングを行い、管理監督者と学生の対象別に、感染予防策のポイントを普及啓発するためのチェックリストを作成いたしました。

次のスライドをお願いします。

まず、管理監督者向けの感染対策のポイントであります。

感染の拡大を予防するためには、日々の基本的な感染対策の徹底はもとより、感染者を早期に把握すること、感染拡大防止策を迅速に講じることが重要であります。

管理監督者向けには、スライド上段にありますように、感染発生時の連絡・情報共有体制の構築等、事前の対策がとられているのか、5つのポイントに分けたチェックリストを作成しております。

次に、学生向けの感染対策のポイントです。

スライド下段をご覧ください。学生の皆様方には改めて基本的な感染対策の徹底をいただくことを目的として、ご自身のこれまでの対策を振り返っていただけるよう、学生寮と部活動に分けて、チェックリストを作成しております。

学生寮においては、相部屋や共有スペースでのマスクの着用、食堂や風呂を時間差で入れ替え制にする等の感染リスクを減らす工夫や、部屋の換気の徹底、窓や換気口の周辺において、空気の流れができるように、整理整頓すること。また、手指消毒が徹底されるような工夫が必要であることについて記載しております。

次に部活動においては、休憩やミーティングの時などでもマスク着用を徹底すること、給水・食事等、マスクを外す場面では、会話を控えるといったことを記載しております。

次のスライドをお願いいたします。

3枚目のスライドは、管理監督者の皆様方、4枚目のスライドは、学生の皆様向けのチェックリストになります。管理者様と学生用で、このように表裏でチェックリストを作っております。

学生生活において集団生活を防ぐためにも、このチェックリストのほか、各団体における感染対策のガイドライン等もご参考いただきながら、引き続き感染予防に取り組んでいた

だきたいと思います。

次のスライドをお願いします。

続いて、自宅療養者ハンドブックの改訂について報告をさせていただきます。

先ほどのモニタリング分析の報告でもございましたが、濃厚接触者における感染経路別の割合は、同居する人からの感染が51.6%と半数を超えている状況です。

また、65歳以上の新規陽性者数も大きく増加しております。高齢者は、重症化リスクが高く、入院期間も長期化することが多いため、施設内や家庭内において引き続き徹底した感染防止対策が大変重要と考えます。

なお、この度のオミクロン株の急拡大においても、基本的な感染予防対策は変わりませんが、オミクロン株の強い感染力を踏まえ、これまで以上に家庭内予防、感染の予防に徹底して取り組んでいくことが重要となっています。

こうしたことを踏まえ、東京 iCDC 専門家ボード感染制御チームにおきまして、自宅療養者向けハンドブックを改訂いたしました。

以前もお見せしましたが、このような形で改訂文を作って、よりわかりやすく、皆様方にお示ししております。

改訂の主なポイントについてですけれども、まずは換気について、24時間換気システムやレンジフードの活用について追記しております。

次に、ハンドブック全体の表現を、よりきめ細やかにわかりやすく見直しております。

また今回の改訂に合わせて、自宅療養中のルールや、困った時の連絡先を、1枚にまとめた、「家族で守ろう10の約束」を新たに作成いたしました。

このように、非常にわかりやすく、家族で守ろう10の約束といったようなものではありません。

新型コロナウイルス感染症は誰もがかかる可能性がある病気で、ウイルスが伝播することで、他の方へ感染が広がっていきます。

そのため、都民の皆様が、感染症の対応と予防について正しく理解し、感染を防ぎ、感染のリスクを下げることが何よりも大切であります。

このハンドブックは、新型コロナウイルス感染症の診断を受けて、自宅で療養する方とご家族の皆様を対象に作成しております。

特に、今後さらに感染拡大が進んだ場合には、自宅で療養する方が増えていくことが想定されます。

ゼロリスクはない中で、ご自宅で過ごしていただく期間中に気をつけていただきたいこと、感染予防策についてまとめておりますので、ぜひともこのハンドブックをご活用いただき、自宅で療養していただきたいと思っております。

私からの報告は以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。

賀来先生からのご説明について何かご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、最後に会議のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【知事】

はい。本日も先生方、ご出席ありがとうございます。日々の分析も本当にありがとうございます。

その結果、「感染状況」は最高レベルの赤、「医療提供体制」が黄色からオレンジ色ということで、それぞれ一段階上がり、「感染状況」は最高位になっております。

そして、ポイントとして3つ。

まず、感染拡大が急速に進んでいて、社会活動の停止を余儀なくされる可能性があるというご指摘。

65歳以上の新規陽性者数が大幅に増加をしていて、今後の動向を注視する必要があるという点。

第5波をはるかに超える療養者数の増加が危惧され、今の太田先生のご発言ですと1月27日には18,266人という数字を上げていただきました。療養者の重症度、緊急度、年齢構成等に応じて、入院医療、宿泊、そして自宅療養体制を柔軟に活用する必要があるというご報告であります。

コロナ病床の確保には一般医療への影響があると、しわ寄せがあるということから、都民の皆様や医療従事者の方々のご協力を賜りたいということでもあります。

そして賀来先生から、東京 iCDC 感染制御チームの先生方に作成いただいた学生寮の、これは監督さんや管理者の方と、学生さんの方と、それぞれチェックリストの中身が違います。必要なチェックリスト、チェックをすべきところをまとめていただき、またオミクロン株対策として、今般、改訂いただいた自宅療養者向けハンドブックについてのご報告をいただきました。

つまり、集団生活を送る学生や、自宅での療養をされるご家庭において、ぜひご活用をいただきたいと存じます。

そして、明日から2月13日まで都内の全域を対象としまして、まん延防止等重点措置を実施いたします。

都民の皆様方には不要不急の外出自粛のお願い、夜間の繁華街、混雑する場所や時間を避けて行動ということで、また不要不急の都県境を超える移動も自粛のお願いであります。1都3県でまとめたフレーズになっております。

事業者の皆様には、テレワークの一層の活用、休暇取得の促進、職場での基本的な感染防止対策等の徹底をお願いいたします。併せてBCP、事業の継続計画の作成、再点検を行って、早め早めの適用をお願いいたします。

そして飲食店の皆様方には、営業時間の短縮や、大変またご負担をおかけいたしますが、ご協力のほどお願いを申し上げます。

オミクロン株、猛烈に拡大しております。この感染拡大を抑えるためにも、私たち一人ひとりが感染防止に対する強い意識と、行動の変容ということが必要となって参ります。

皆様のご理解・ご協力よろしくをお願いいたします。

以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第75回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。

ご出席ありがとうございました。